

# H26年度STBJ重点活動

## <重点活動>

### ① ポストMDGsに向けた動き

- UHCと結核
- WHO (global TB programe) のpost2015 TB Strategy への支持
- ポスト2015年ストップ結核ジャパン・アクションプラン計画

### ② パートナーとの連携強化

### ③ ハイリスクグループへの啓発

- 高齢者
- たばこ、合併症(特に糖尿病)
- LTBI (看護職の結核対策)

### ④ インドネシア伝統的影絵を活用した啓発活動

### ⑤ 途上国の結核対策プロジェクトに対する支援

### ⑥ 清瀬市文化遺産サポート(ゆかりのツアー)

# ① ポストMDGsへ向けた動き

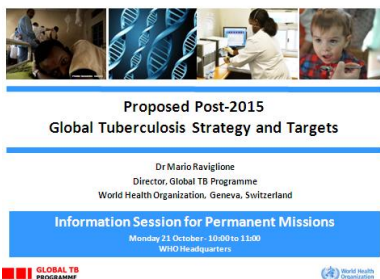
定款4: 国際的な結核対策への日本の貢献を高める適切な政策や優先事項を提言する事業

## 概要

ポストMDGsとして、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を提案する動きがあり、そのUHCを目指した保健システムの強化の要素として、疾患別アプローチをプライマリ・ヘルス・ケアへ融合しようという動きもある。結核対策も、このような国際的な潮流にのった対応が必要となってくる。ポストMDGsに向けた動向をさぐり、また、UHCを視野に入れた広い視点での結核対策の推進を目標とする。

- ・ ポストMDGsに関する会合、意見交換会などに出席し情報を収集する。  
外務省、WHO、STBPの動きについてフォローをする
- ・ UHCを視野にいれた広い視点での結核対策の推進。公衆衛生対策、環境対策、福祉対策、科学技術政策、人材育成についても、保健特に、結核を含む感染症対策の重要性を訴える、等
- ・ 日本政府などに、WHO (GLOBAL TB PROGRAMME)の推進するPost-2015 Global TB Strategy and Targetsへの支持、結核対策の重要性を訴える。  
→ 国際会議開催の検討
- ・ Post-2015年に向け、ストップ結核ジャパンアクションプラン改訂も考慮にいれる。

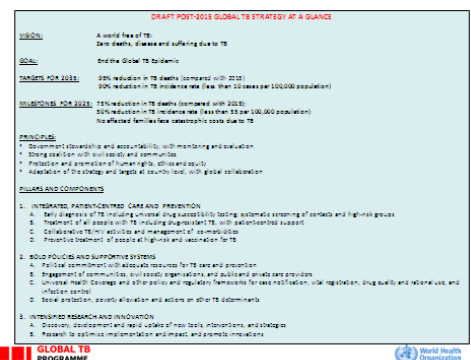
## 参考



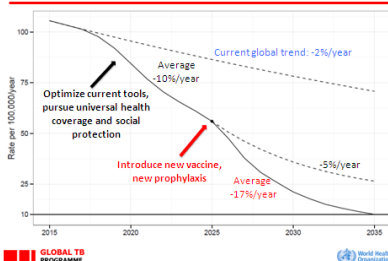
**The Global Burden of TB - 2012**

|                               | Estimated number of cases                                        | Estimated number of deaths                                           |
|-------------------------------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| <b>All forms of TB</b>        | 8.6 (8.3-9.0) million<br>• 0.5 m in children<br>• 2.9 m in women | 1.3 (1.0-1.5) million*<br>• 74,000 in children<br>• 410,000 in women |
| <b>HIV-associated TB</b>      | 1.1 (1.0-1.2) million (13%)                                      | 320,000 (300k-340k)                                                  |
| <b>Multidrug-resistant TB</b> | 450,000 (300k-600k)                                              | 170,000 (102k-242k)                                                  |

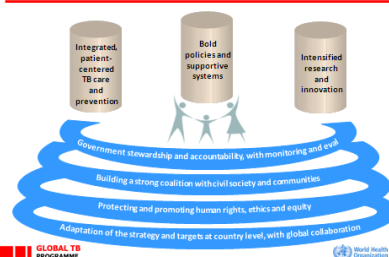
Source: WHO Global Tuberculosis Report 2013



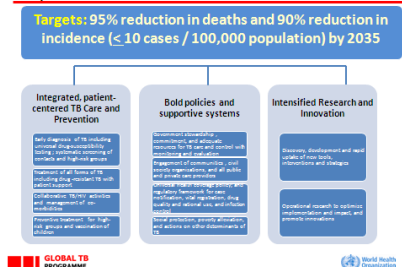
Projected acceleration of TB incidence decline to target levels



Post-2015 Global TB Strategy  
Proposed Pillars and Principles



Post-2015 Global TB Strategy  
Proposed Pillars



## ② パートナーとの連携強化

定款2: 結核対策支援を促進するために、会員や諸団体での会議、事業等による交流を促進する事業

定款3: 政府省庁間、NGO、職能団体や民間企業の協力下で、日本の国内及び国際結核対策への参加の協力や調整をする事業

定款4: 国際的な結核対策への日本の貢献を高める適切な政策や優先事項を提言する事業

### 概要

「地球の全ての人が基礎的保健医療サービスを受けること(UHC)の重要性が高まっている。MDGsの達成への取り組みを強化しつつ、UHC促進に貢献するという「国際保健外交戦略」に基づき、結核対策がUHC達成できるよう、また、「新成長戦略」の考えにも基づき、パートナー企業などとも連携し、結核にかかる新技術をグローバルに活かし、国際貢献するべく活動をする。

- ・ パートナーと連携し、結核にかかる新技術をグローバルに活かす為の活動をする。
- ・ STB関西との連携を強化する。
- ・ 関係学会との連携

### H25活動

#### ●TICAD Vへの参加

公式サイドイベントとしてシンポジウムを結核研究所と共催

日時: 5/31 15:00~16:30

場所: パシフィコ横浜アネックスホール

テーマ: シンポジウム: アフリカの結核をゼロに!

コンセプト: ポストMDGsを展望し、結核への取り組みはアフリカのUHCの実現にどのように役立つか、新技術含め日本は、どのように貢献できるか。



#### ●STB関西との連携

・保健計画部会・感染症予防部会合同シンポジウム

・おひさしぶり訪問企画(年2回)

元患者さんたちは通常は結核治療が終了しても、縁が切れることがないように、NGOのスタッフなどと交流を継続することにより、心や身体の健康面も安心して日々を過ごすことを目的とする

・大阪ホームレス健康問題研究会開催

あいりん地区の結核対策の現状と課題」

ー西成特区構想を踏まえてー 講師: 大阪市西成区役所結核対策特別顧問

(公財)結核予防会結核研究所主幹 下内 昭氏

・高齢者特別清掃就労事業での講演「あいりん地区の結核の現状と結核知識の習得」

大阪公衆衛生協会 事務局長、STB関西事務局長 井戸 武實氏

・ホームレスの人々に結核に関するアンケートを実施

など



### ③ ハイリスクグループへ対する啓発

定款1: 医療従事者、政策決定者や一般市民に対して、情報提供や研修を通じて結核に関する啓発活動を推進する事業

#### 概要

結核は、リスクグループに偏在して発生する。高齢者の結核は、新規登録者の半数以上を占め、増加傾向にある。また、リウマチや糖尿病など免疫力が弱い方は結核にかかりやすく、注意が必要。LTBIに関しては、LTBI治療数の1割程度の患者数が、翌年減少することが推定される。学会などを通じて、医療従事者に対してLTBIの理解促進、提言活動を行う。また、接触者、医療従事者(特に看護師)、高蔓延国からの帰国者に対して、LTBIの早期発見(QFT検査の推進)と早期治療の推進を働きかける。

- ・ 高齢者に対する提言・啓発活動
- ・ たばこ、合併症(特に糖尿病)提言・啓発活動
- ・ 潜在結核に対する提言・啓発活動(特に看護職)
- ・ 外国人の結核に対する提言・啓発活動



#### H25活動

#### ●結核病学会、日本公衆衛生学会でのたばこ、糖尿病と結核についての啓発

#### ●糖尿病協会との合同企画

ターゲット: 医療従事者に対して

目的: ・糖尿病、結核の連鎖関係の理解浸透

特に、糖尿病医療関係者に対して、結核との連鎖関係の理解と注意促進(特に結核感染者)

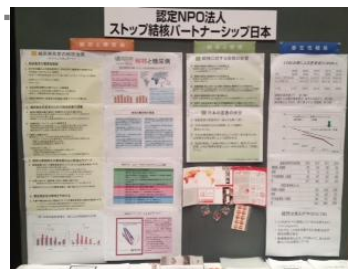
・サイパンスタンダードの普及

・専門誌、医療従事者向け冊子などへの投稿、記事広告

「さかえ」(月刊)、糖尿病療養指導のためのDM Ensemble(年4回発行)での記事

・既存イベントでの発表、ブース展示

療養指導学術集会 7/27-28 国立京都国際会館 など、

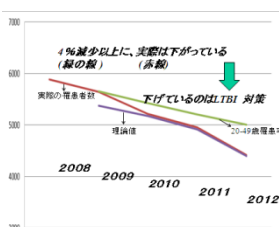


公衆衛生学会

5年間の潜在結核治療の実態と管理

ストップ結核パートナーシップ日本  
田中慶司

#### ● 潜在結核に対する提言・啓発活動



LTBI治療による患者減少は600人

|                | 2008    | 2009    | 2010    | 2011    | 2012 |
|----------------|---------|---------|---------|---------|------|
| PT             | 5892    | 5646    | 5221    | 4955    | 4416 |
| h=(n-1)PT÷0.96 | 5656.32 | 5430.07 | 5212.86 | 5004.35 |      |
| h-LTBI/10      | 5377.62 | 5177.27 | 4921.86 | 4395.15 |      |
| LTBI           | 2787    | 2528    | 2910    | 6092    | 5082 |

実際の患者数(PT 赤い線)  
20歳から49歳の罹患数は、毎年4%減少(h 緑の線)  
緑の線よりLTBIの1割が減少する(理論値 紫の線)

#### 結論

LTBI治療の数の、1割程度の患者数が翌年減少することが実際の統計から推定された

傾向的に、少ない地域は問題

#### 医療関係者の感染リスク

- ・ 医療関係者等のうち、看護師などの罹患率は300人程度である。一般にはこの年代の罹患率は10万対10程度なので、危険度は3倍程度となる
- ・ これに対して、LTBIの治療をみると、2036人がされている。患者数の7倍近い。



## ④ インドネシア伝統的影絵を活用した啓発活動

定款3: 政府省庁間、NGO、職能団体や民間企業の協力下で、日本の国内及び国際結核対策への参加の協力や調整をする事業

### 概要

インドネシアの伝統的影絵「ワヤン」を活用したコミュニティに根ざした啓発活動を計画。外務省NGO補助金に申請し、現地視察調査を2012年1月に実施した。その結果をもとにH25年11月に現地へ出張、実施に向け具体的な調整、制作に入った。H26年の世界結核デーでの上演を目指す。

### H25活動

#### ● H26年世界結核デーでの上演にむけた現地調整 11/17～11/24

インドネシア(ジャカルタ、ソロ、スラカルタ)

事業目的: インドネシアの伝統的影絵を通しての結核啓発活動(正しい知識の普及、早期発見)

出張目的: 上演に向けてワヤンシナリオづくりの為のワークショップ、

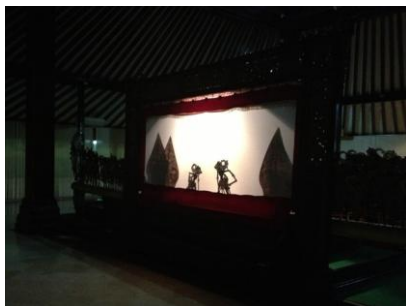
インドネシア結核予防会、ダラン等との調整など。

ワヤンシナリオ作り開始。

<予定>

NGO海外スタディプログラム

H26年3月の世界結核デーのイベントにて上演予定。

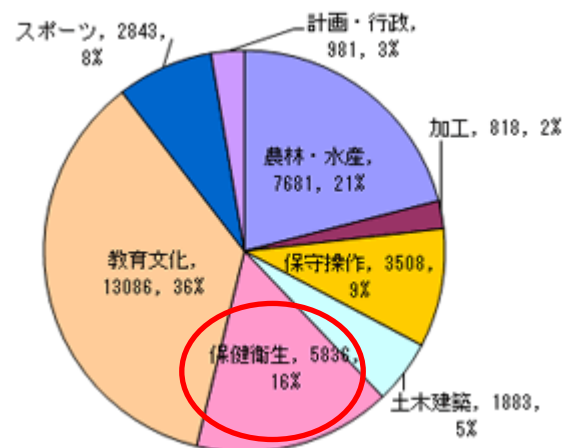


## ⑤ 途上国の結核対策プロジェクトに対する支援

定款5: 国際貢献を推進するための国内拠点の強化や人材育成を推進する事業

### 概要

- 結核対策プロジェクトに対する支援と、「国際結核研修」への協力。
- 途上国の結核対策プロジェクトに従事する日本人医療協力要員の養成支援  
結核対策プロジェクトで派遣される海外協力隊の人数は、エイズ、ポリオと比較し少ない。  
協力隊の派遣は、現地からの要請に基づき、募集され派遣が決定する
  - 現地NGO等には、結核対策プロジェクトに対する医療協力要員の要請を積極的に求めるように働きかける。
  - JICA等の国際協力案件の現地担当者に、結核プロジェクトに対する派遣の検討を依頼する。
  - 派遣隊員に対して、結核予防に関する教育を行うことを働きかける。



青年海外協力隊派遣実績



## ⑥ 清瀬市文化遺産サポート

定款5: その他、前各号に附帯する事業

### 概要

・ 清瀬市を文化遺産登録する動きがある。清瀬市の文化的価値と結核を結びつける事業。結核治療のゆかりの地をめぐりながら結核治療の歴史を知り、更に現在の治療の現場を見学、結核に対する知見を広めること。

参加者(案): ストップ結核議員連盟 厚生労働記者クラブ、そのほか



外気舎記念館 傷痍軍人東京療養所



碑誌 結核が死に至る病であったころ、当時無医村だった清瀬のここに、東京府が結核療養所として、府立清瀬病院を作った。



寿康館の跡。講堂、集会所といった用途で使われた